

- ロ、獨和平提案、英は無視せん（ロンドン同盟）
- ニ、英土新通商協定交渉開始（アンカラ讀賣）
- 三、英海軍優勢を強調（チャーチル海相下院演説）（ロンドン同盟）
- 四、獨の石油獲得防止に英佛資本を動員（イスタンブール同盟）
- 五、ノルウェー國王、スエーデン訪問（ベルリン報知）
- 六、獨ソ協定の成果—對獨物資供給増大（ロンドン中外）
- 七、佛情報省設置説（パリ同盟）
- 八、米加太平洋防備密約説（ワシントン同盟）
- 九、ウエーク島防備案否決（米下院歳出委員會）（ワシントン同盟）

朝刊論説題目

- 「朝日」 産組再出發の好機
- 「日日」 産組保險の流産、國民學校の實際問題
- 「讀賣」 蔣政権の財的抗戦力
- 「中外」 重慶政府と和平気分
- 「報知」 藤原物價の前途
- 「國民」 中南米諸國と通商問題
- 「都」 愈々新學制、支那の教育、留學生來る、奉公日は、市長の條件

内閣情報部三、一 情報第一號

重慶支那語放送（時事解説）—二月二十三日 （支那派遣軍報道部報告）  
 ◎日本の米恐慌

同胞諸君！敵國の中國侵略戦以來其の國內は數十年來の蓄積財力は悉く動員され、數百萬の無辜なる日本人民は中國の戦線に送り出され、國內一切の生産事業は全く人手無く米恐慌、木炭恐慌、麥恐慌等の恐怖時代を現出せり。彼のナポレオン將軍は兵を率ゐて東征し惨敗を喫せり。其の失敗の原因は將軍戰略上の失敗に非ず兵力の不備に非ず砲火の猛烈ならざるに非ず、特に又將兵の勇敢ならざるに非ず、其の戦敗の重大要素は糧食の杜絶にしてこれが爲戦闘力は特續せず一戦遂に破れたり。目下我々は敵國內の米饑饉問題を論ぜんとするものにして、敵國內の米饑饉の現象は敵國政府が確認し發表をはかり居る如く日農相の談に依れば「日本の米饑饉は購買力激増の爲に非ず生産不足にあり、時日の経過と共に米恐慌の現象を呈さん」と豫言したり。又日本の有名なる雑誌「糧友」に日本の食糧問題に關する論文掲載せられその大意は「日露戦争時代日本が戦勝を博したるは民食軍糧の憂なく年々豊作なりたるに基因す」と稱し最後に「目下の日支事變は既に長期戦となり食糧缺乏は日本の直面せる大

難題なり」この結論を行へり

又日本の川島中佐は「日本本年の米饑饉尙維持し得べきも其の最難關は明年度にあり肥料缺乏、人力不備、電力不足等の問題は米饑饉の擴大を益々促進す可く將來の窮乏状態は更に想像に絶す可し。日本の毎年の米消費量は八千二百萬石にして一九三九年度の米供給は僅に一千二百萬石に過ぎず。而して朝鮮も米不作に悩まされ、軍隊の米消費量は増大し此の間米饑饉問題は救済又は彌縫の餘地なし。日本馬の使用法は中國馬のそれと異り殆ど田地を耕すに用ひらるるを以て戰鬪に斃れ耕田用の馬は大缺乏を來すに至り肥料も亦重大問題化せり

日本は維新後國內米糧消費量三千萬石なりしも、現在は八千萬石に達し其の數倍加せり故に増産計畫を行はざる可からざるに至り化學肥料の使用を提唱せるも事實化學肥料は殆ど用ひられず僅に豆糟即ち硫酸、硝酸、鹽酸等使用されるに過ぎず。事變以來硫酸は毒瓦斯原料に又火薬の原料として大重使用され、肥料に用ひらるる硫酸は極めて僅少なりたるも歐洲大戰勃發後、鹽酸肥料の供給漸次減少し一部工場の人力及び電力の缺乏に因り醋酸の製造不能となり化學肥料の來源は杜絶せり。然して化學肥料たる豆糟は悉く中國、東北、華北各地より大量配給を受け居るを以て該地民衆は偽政府の壓迫下に在り價格の折合附かず、故に民衆は悉く大豆を死蔵して販賣を願はず。一九四〇年度日本の肥料は既に重大問題化し、人民の荒廢は米饑饉の要素の一となり

川島中佐は又「日露戰爭當時日本は年々豐作なりしも現在日本國內各種の原料は荒廢し其の將來の運命は實に焦燥に堪へず。日支事變三年以來中國は年々豐作にして日本は年々不作にして其の國民は饑饉線上にあり。中國の勝利は既に疑ふ可くもあらず。黑夜去り黎明將に到らんとし、光明及び陽光は遙に中國の前途を照せり

同胞諸君！ 期待せよ！

内閣情報部三・一

情報第二號

マニラ英語放送（二月二十八日）

（倫敦發）

（臺灣總督府交通局遞信部聽取）

○ラヂオ聽取者は昨夜奇怪なる一放送局よりチエンバレン首相を非難攻撃する爲め放送されたメッセージを聽取したるが其形式は恰も獨逸に於ける「自由放送局」なるものがヒットラー總統を罵倒せると全く撥を一にしてゐる、而して此私設放送局は昨夜初回の放送を行つたが其の際同局は毎夜四回づつ放送する旨を發表せり。